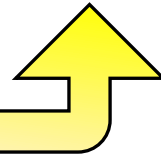




目標が行動を変える



1年生学年主任
藤原 泰輔

夏休みのように自由な時間が多い期間は、自分自身の心の弱さと向き合う機会がとて多くなります。

- ・仕事は休みだからもうちょっと寝よう
- ・洗い物は明日の朝にでもやろう
- ・庭で遊んだプールの片づけはまた今度

そんな判断をする度に、自分はなんて意志の弱い人間だろうかと落ち込むこともあります。それでも、私はこの夏休みにやり遂げたことがあります。それが自動車を使わず「自転車で出勤する」ということです。これは、夏休み前の学年集会で、1年生の前で宣言したことです。毎日が暑く、筋肉痛もあり、自転車通勤はツライものでした。しかし、弱い心に打ち克ち、やり遂げることができたのは、明確に目標として掲げたからだと思います。目標の有無で行動が変わる。それを実感しました。

中学生は目標を立てる機会は何度もあります。学級目標やテストの目標、行事ごとにも目標を立て、長期休暇や学期の始めにも目標を立てます。部活ごとにも目標を立てるでしょうし、進路や将来の夢について考えることも目標を立てるということだと思います。そんなたくさんの目標が形だけのものにならないように気を付けたいものです。自分のやるべきことを見失ったり、困難にぶつかったりしたときに立ち返るのが目標です。その目標を立てたときの願いを思い出し、自分を奮い立たせたいです。

また、目標を立てても途中で挫折しそうになることもあります。そんなときに頼りになるのが仲間の存在です。中学校にはたくさんの仲間や先生がいます。自分と同じように目標に向かって頑張っている仲間がいることがどれだけ心強いのか。私も自転車通勤で苦しかった時に支えになったのが西可児中生の存在です。学校に着いた時に声をかけて

くれた生徒たち。道中にすれ違う卒業生の姿。コンクールという大きな目標に向かって努力する吹奏楽部のみんな。そして、夏休み前応援してくれた1年生のみんな。みんなのおかげで頑張れました。ありがとう。

また、どのような目標を立てるのかも大切なことです。下の言葉は、元プロ野球選手の松坂大輔さんの座右の銘として有名な言葉です。

『目標がその日その日を支配する』

元は社会教育家の後藤静香さんの「第一歩」という詩の一節です。

『第一歩』後藤静香

十里の旅の第一歩 百里の旅の第一歩

同じ一歩でも覚悟がちがう

三笠山にのぼる第一歩 富士山にのぼる第一歩

同じ一歩でも覚悟がちがう

どこまで行くつもりか

どこまで登るつもりか

目標がその日その日を支配する

十里(約39km)を進もうとする人と、百里(約393km)を進もうとする人では、その第一歩に込める覚悟や思い、それまでの準備が違うということだと思います。第一歩目が違えばきっと二歩目も差が出るでしょう。こうしてできた差は、最後に大きな差となって表れます。

適切な目標を立て、覚悟をもてば、それを達成するために日々の生活が充実します。個人としても、学級や学年、学校といった集団としても、大切な夏休み明けの生活。目標を大切に、充実したものにしていきたいです。